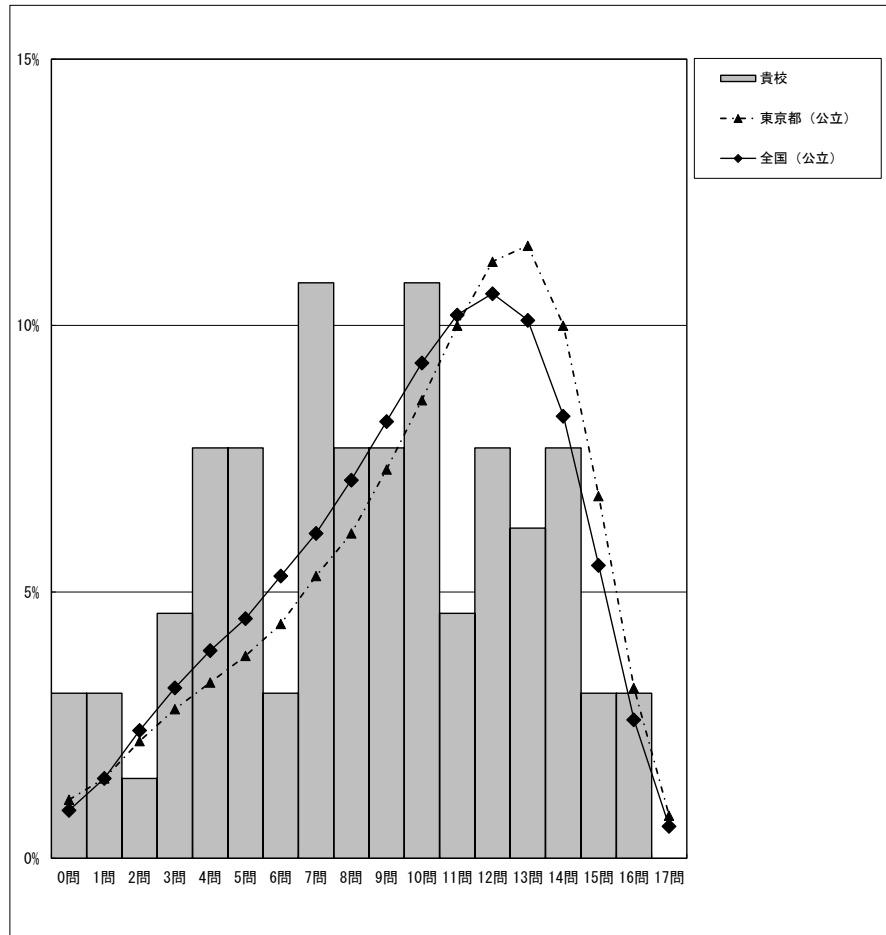


・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	65	8.5 / 17	50	9.0	4.1
東京都（公立）	93,968	10.1 / 17	60	11.0	3.9
全国（公立）	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

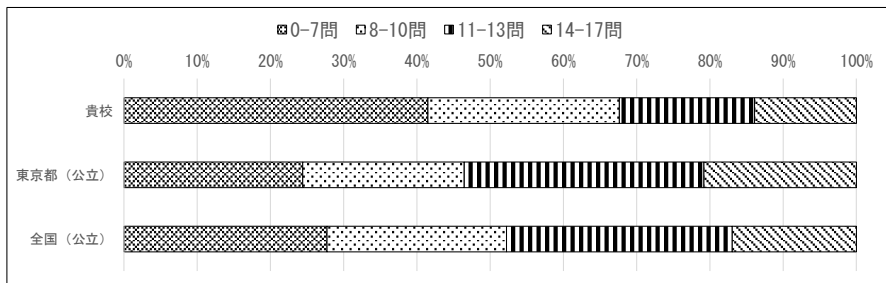
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合（%）		
	貴校	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
17問	0	0.0	0.8	0.6
16問	2	3.1	3.2	2.6
15問	2	3.1	6.8	5.5
14問	5	7.7	10.0	8.3
13問	4	6.2	11.5	10.1
△ 12問	5	7.7	11.2	10.6
11問	3	4.6	10.0	10.2
◇ 10問	7	10.8	8.6	9.3
◇ 9問	5	7.7	7.3	8.2
8問	5	7.7	6.1	7.1
7問	7	10.8	5.3	6.1
6問	2	3.1	4.4	5.3
▽ 5問	5	7.7	3.8	4.5
4問	5	7.7	3.3	3.9
3問	3	4.6	2.8	3.2
2問	1	1.5	2.2	2.4
1問	2	3.1	1.5	1.5
0問	2	3.1	1.1	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	12.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	9.0問	11.0問	10.0問
▽ 第1四分位	5.0問	8.0問	7.0問



上記の通り、令和7年度の平均正答率は、東京都平均から10ポイント、全国平均から、7.1ポイント下回っている。観点別にみると、東京都平均から「知識・技能」は、11.9ポイント、「思考・判断・表現」は7.7ポイントの落ち込みがみられた。領域別にみると、「粒子」を柱とする領域では、東京都平均から12.2ポイント、「地球」を柱とする領域では、東京都平均から10.6ポイントも低い。

しかし、前回の令和4年度の平均正答率は東京都平均と本校の差は12ポイントであり、2ポイント差が縮まった。また、「エネルギー」を柱とする領域では、令和4年度の東京都平均と本校の差が14.6ポイントであったが、令和7年度では、8.4ポイントと領域別でみても東京都平均との差が縮まっている。

今後の授業実践の中では、実験の結果や課題に対する考察を適切にまとめられるようにすることが必要である。そのためには、観察・実験で得た結果をノートに正しく記録すること、得た結果を分析して、より妥当の考えを作り出すこと、それらを結論の根拠として表現できるように学習を進めていく。また、友達と考察を比較、共有し、その経験を通して、より妥当な考え方を作り出す力を育てる学習を増やしていく。